

美に憑かれたオリンピア —レニ・リーフェンシュタールの罪—

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

政権を獲得したアドルフ・ヒトラーに抜擢されてレニ・リーフェンシュタール(1902-2003)はナチス党大会の記録映画を撮った。会社を設立して宣伝省と契約し、政府を後ろ盾として観客が動員された。芸術的な映像は国外からも高く評価され、国際オリンピック委員会(IOC)からベルリン・オリンピックのドキュメンタリー制作を依頼される。独自の映像美によって名声はさらに高まり、ドイツを代表する映画監督として栄光を極めた。

しかし第2次世界大戦でナチス・ドイツが崩壊すると戦犯容疑で逮捕され、一連の作品もナチスのプロパガンダ(政治宣伝)として排斥される。すべてを失ったレニはそのままで消え去らなかつた。世界を駆けめぐる写真家として復活し、ふたたび歴史の舞台に返り咲く。

きわめてタフに生き抜いたレニは20世紀最強の女性ともいわれている。幾多の非難と喝采を浴びながら彼女は何を考えていたのだろう。

ヒトラーと意志の勝利

レニはベルリンの裕福な家庭で生まれ育った。高等女学校卒業後、本格的にダンスを学び、21歳で舞踏家としてデビューする。天性の美貌と抜群の運動神経で将来を囑望されたものの、膝を痛めて女優に転身した。

当時はサスペンス風の高岳映画が人気を呼んでいた。レニは主役を演じるようになり、吹き替え

なしで険しい雪山のロケをこなした。やがて自分でも映画を撮ろうと決心し、新たに制作会社を立ち上げる。

1932年、29歳で初の監督と主演を務めた『青の光』が完成し、一般公開された。

アルプスの山奥で撮影した斬新な映像は反響を呼び、ヴェネツィア国際映画祭で銀賞を受賞する。ドイツのみならず世界初の若き女性映画監督の誕生に国内外から熱い視線が注がれた。

ナチス(国家社会主義ドイツ労働者党)の党首ヒトラーもそのひとりだった。1933年に政権を奪取し、ニュルンベルクで開かれる党大会の記録映画をレニに依頼する。彼女はヨーゼフ・ゲッベルス率いる宣伝省の全面的なバックアップを受けて史上最高のプロパガンダ映画といわれる『意志の勝利』を完成させた。宣伝省は「国民の映画」と認定し、すべての国民を動員するキャンペーンを展開。光と影のコントラストを駆使した重厚な映像はバリ国際博覧会で金賞を獲得した。

党員ではなかつたレニは政治的忠誠心でナチスに従ったわけではない。ヒトラーが彼女の非凡な



レニ・リーフェンシュタール

才能に惹かれたように彼女もまたヒトラーの絶对的な権力に魅せられていた。後年のインタビューで「彼はもしかしたらドイツを救う人物ではないかと思いました」と語っている。

華やかな祭りのあとで

時代の寵児に躍りでたレニは1936年、IOCの要請でベルリン・オリンピックの記録映画を撮る。莫大な製作費を使って40台のカメラを揃え、会場に足場を組み、飛行機や気球からの撮影も敢行した。女子の高板跳び込みでは画期的な試みとして水中カメラを導入した。

膨大な記録フィルムには効果音や練習風景などのイメージフィルムも加えられた。棒高跳びの決勝戦は夜間にもつれこみ、用意したライトで実際の競技を撮ることができなかつた。そこでレニは翌日の夜、すでに表彰式を終えていた選手たちを呼び戻し、スタジアムに観衆のエキストラを集め、あらためて白熱の競技を再現した。

40万メートルに及ぶフィルムは6千メートルに編集され、2年後に『民族の祭典』と『美の祭典』の2部構成による『オリンピア』として完成する。『民族の祭典』は古代ギリシャの遺跡と彫刻の荘厳な映像から始まり、円盤と砲丸を投げる躍動的な人間の姿に変わってオリンピック史上初の聖火リレーにつながっていく。聖火が灯されて厳かにヒトラーが開会宣言を行うと10万人の観衆は右手を斜めに上げて「ハイル・ヒトラー」(ヒトラー万歳)と熱烈に連呼した。

プロパガンダでありながらオリンピック映画の最高傑作と評されている『オリンピア』は1938年に封切られ、ヴェネツィア国際映画祭で最高賞(ムッソリーニ杯)を受賞する。日本でもキネマ旬報の外国映画ベスト10で第1位になり、それまでの観客動員記録を塗りかえる大ヒットとなった。

ドイツの国民的芸術家としてレニは文字どおり栄光の頂点に立つ。ところが翌年、ナチス・ドイツがポーランドに侵攻して第2次世界大戦が勃発すると運命は一変した。

連合国軍に敗れたヒトラーは1945年4月29日、ベルリンの地下壕で愛人のエヴァ・ブラウンと結婚し、翌日に心中自殺した。ナチスの同調者とし

てレニも戦後すぐに逮捕され、裁判や精神病院への収監を繰り返す。一貫して無実を主張していたレニは1948年、非ナチ化審査機関による判決で戦犯容疑を免れる。とはいえナチスのもっとも有名な協力者として容赦なく批判を浴びつづけた。

ドイツとベルギーの合作による1993年のドキュメンタリー映画『レニ』では「決して反ユダヤ的だったことはないし、だから入党もしなかつた。言ってください、どこに私の罪が? 私は原爆も落とさず、誰も排斥しなかつた」と釈明している。レニが政治に疎い芸術至上主義者であったことは否定できない。美に憑かれて悪魔と契約した伝説のファウスト博士のように彼女は最後まで謝罪しなかつた。いまもドイツでは『意志の勝利』の上映が法律で禁止されている。

史上最年長のダイバー

失意の日々を超えてレニは1954年、戦時中から着手していた劇映画『低地』の完成にこぎつける。イタリア映画の巨匠ヴィットリオ・デ・シーカと詩人のジャン・コクトーから絶賛されたものの、興行的には失敗した。

1962年、アフリカ奥地のスーダンに渡り、ヌバ族に出会って原始的な美しさに魅了される。現地に通って1973年に出版した写真集『最後のヌバ』は世界中でセンセーションを巻き起こし、劇的な復活を果たす。同年、年齢を偽ってスキューバダイビングのライセンスを72歳で取得し、水中カメラによる『珊瑚の庭』と『水中の驚異』の2冊の写真集を出して世間を驚かせた。

世界最年長のダイバーとして100歳を迎えた2002年、生涯最後の作品となった『ワンダー・アンダー・ウォーター 原色の海』で48年にぶりに映画監督として復帰する。翌年、永らく助手を務めてきた40歳年下のホルスト・ケトナーと結婚し、101歳で永遠の眠りについた。

歓声と怒号のなかで美に殉じたレニの矜持を物語るエピソードが伝えられている。晩年のある日、ハリウッド女優のジョディ・フォスターがレニの生涯に関心を抱いて伝記映画の製作を打診してきた。するとレニはこう言って断ったという。

「彼女は私を演じられるほど美しくない」。